

2024年3月期（第71期） 決算説明会

(2023/4/1～2024/3/31)



2024年3月期実績及び 2025年3月期見通しについて

代表取締役社長 鷹野 準

2024年3月期決算（連結） 実績の内容について

（ご注意）

- ・当期（2024年3月期）より報告セグメントの区分を変更しており、過年度の数値については、当該変更を反映したものに組替えております。
- ・当期において、企業結合に係る暫定的な会計処理を確定しており、前期（2023年3月期）に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

当社およびグループ会社の概要について

○：連結子会社、●：連結子会社（孫会社）

会社名	沿革等		事業の内容
※当社 タカノ株式会社	1953年7月 1997年2月	ばね製造会社として設立 東京証券取引所に上場	オフィス家具、ユニット（ばね）製品、エクステリア製品、画像処理検査装置、電磁アクチュエータ、健康福祉関連機器の製造販売
○(株)ニッコー [機械・工具]	1968年3月	グループ内の工具機械等の仕入をする商社機能として設立	工具、器具、機械、エクステリア製品の仕入販売
○タカノ機械(株) [検査計測機器]	1979年9月	当社治工具・専用機の設計製造部門を分離独立させ設立	・省力化機械の製造販売 ・検査計測装置のメカ機械等の製作
○台湾鷹野股份有限公司 [検査計測機器]	2005年2月 2005年4月	当社100%子会社として設立 営業開始	台湾におけるFPD向け画像処理検査装置のメンテナンス、アフターサービス、販売活動
○上海鷹野商貿有限公司 [住生活関連機器]	2010年1月 2013年12月	当社100%子会社として設立 資本金を50万米ドルに増資	オフィス家具他、各種製品の仕入販売（当社各部門の中国市場向けの製品の販売活動等、中国からの部材仕入活動等を行う目的で設立）
○香港鷹野国際有限公司 [産業機器]	2011年8月 2012年4月	当社100%子会社として設立 営業本格開始	産業機器（電磁アクチュエータ）製品、検査計測機器製品およびそれぞれの製品にかかる部品等の仕入・販売（輸出入）
○Takano of America Inc. [産業機器]	2019年8月 2020年4月	当社100%子会社として設立 営業本格開始	産業機器（電磁アクチュエータ）製品の仕入販売
○(株)ユーキ・トレーディング [住生活関連機器]	1989年6月 2023年3月	会社設立 株式を100%取得し連結子会社化	福祉用具・健康用品の輸出入および国内販売
●鷹野電子(深圳)有限公司 [産業機器]	2023年9月 2023年10月	香港鷹野国際有限公司の100%子会社として設立 営業本格開始	産業機器（電磁アクチュエータ）製品および部品等の仕入・販売（輸出入）

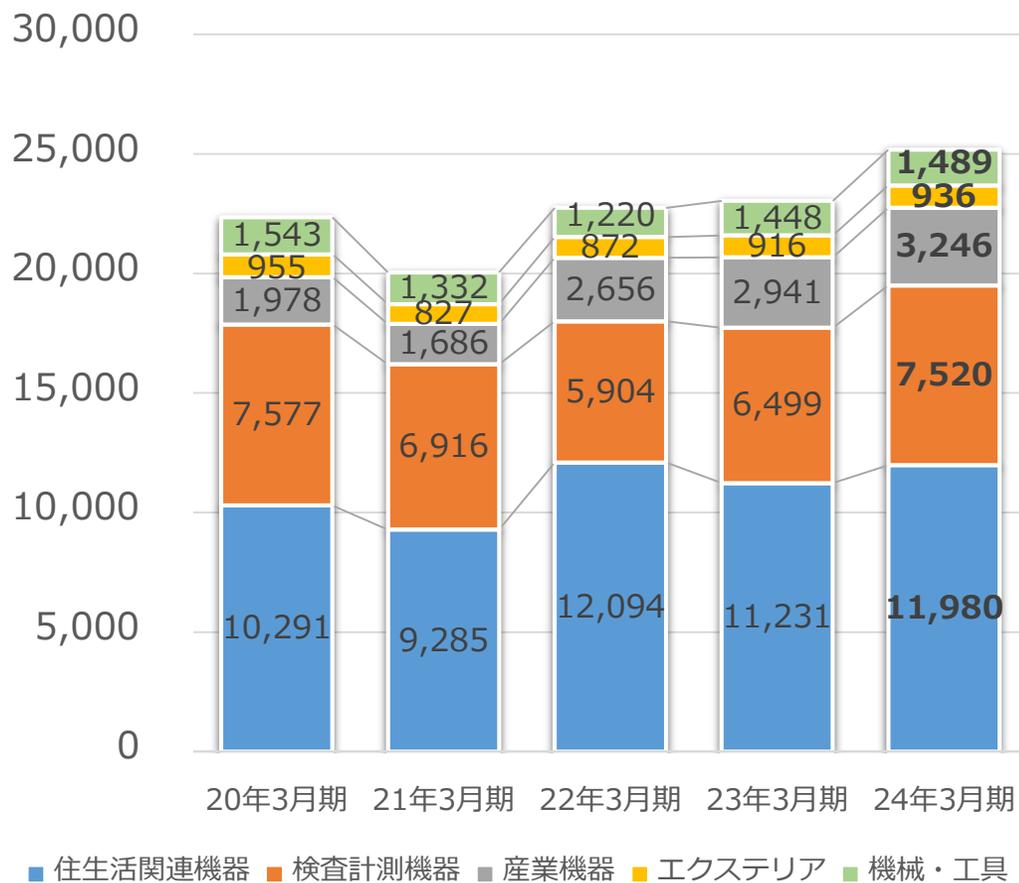
2024年3月期連結決算実績(対前期比)

	2023年3月期実績 (百万円)	2024年3月期実績 (百万円)	前期比 (%)
売上高	23,037	25,173	109.3
営業利益	999	880	88.1
経常利益	1,103	1,023	92.8
親会社株主に帰属 する当期純利益	828	601	72.5

連結セグメント別売上高の推移

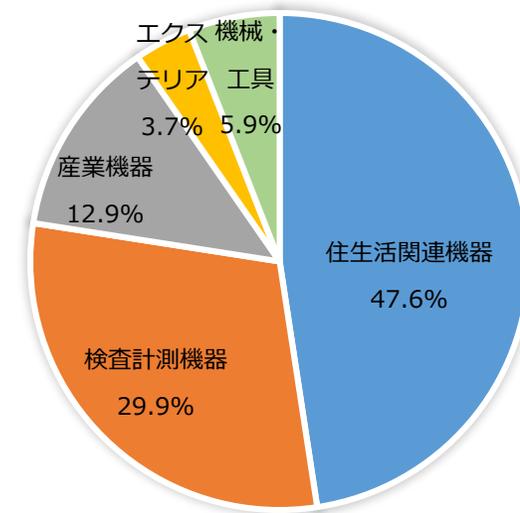
セグメント別売上高推移

単位：百万円

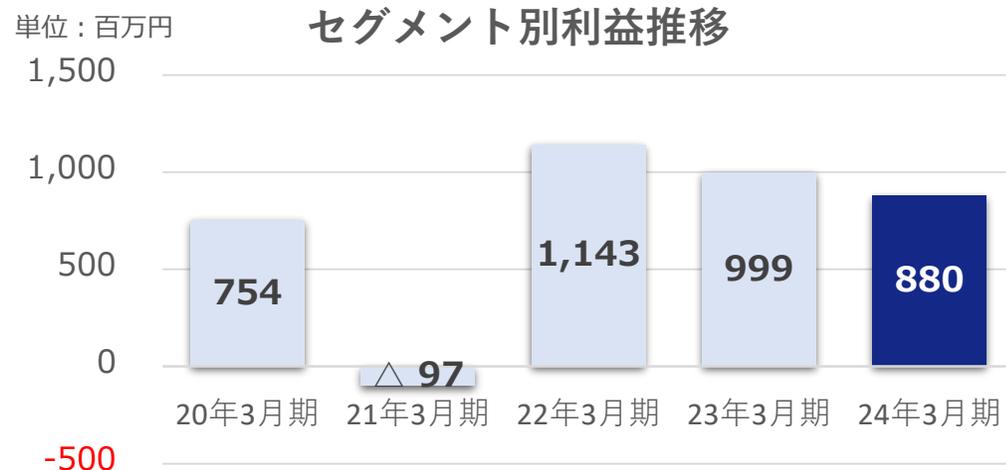


	23年3月期実績 (百万円)	24年3月期実績 (百万円)	前期比 (%)
住生活関連機器	11,231	11,980	106.7
検査計測機器	6,499	7,520	115.7
産業機器	2,941	3,246	110.4
エクステリア	916	936	102.1
機械・工具	1,448	1,489	102.8
合計	23,037	25,173	109.3

2024年3月期 連結売上高構成比



連結セグメント別利益の推移



【連結セグメント別利益 内訳※】

(単位：百万円)

	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期	24年3月期
住生活関連機器	173	△337	328	△145	△47
検査計測機器	368	149	271	541	266
産業機器	107	63	506	504	576
エクステリア	28	△26	△35	6	△6
機械・工具	64	58	85	93	76
取引消去	10	△5	△13	△1	15
合計(営業利益)	754	△97	1,143	999	880

	23年3月期実績 (百万円)	24年3月期実績 (百万円)	前期比 (%)
住生活関連機器	△145	△47	-
検査計測機器	541	266	49.2
産業機器	504	576	114.2
エクステリア	6	△6	-
機械・工具	93	76	81.7
取引消去	△1	15	-
合計(営業利益)	999	880	88.1

※当期（2024年3月期）より報告セグメントの区分を変更しており、
過年度の数値については、当該変更を反映したものに組替えております。

経常利益・当期純損益の推移



- 2024年3月期の1株当たり当期純利益
39円50銭

※「当期純損益」は親会社株主に帰属する当期純損益を表示しております。

総資産・純資産推移

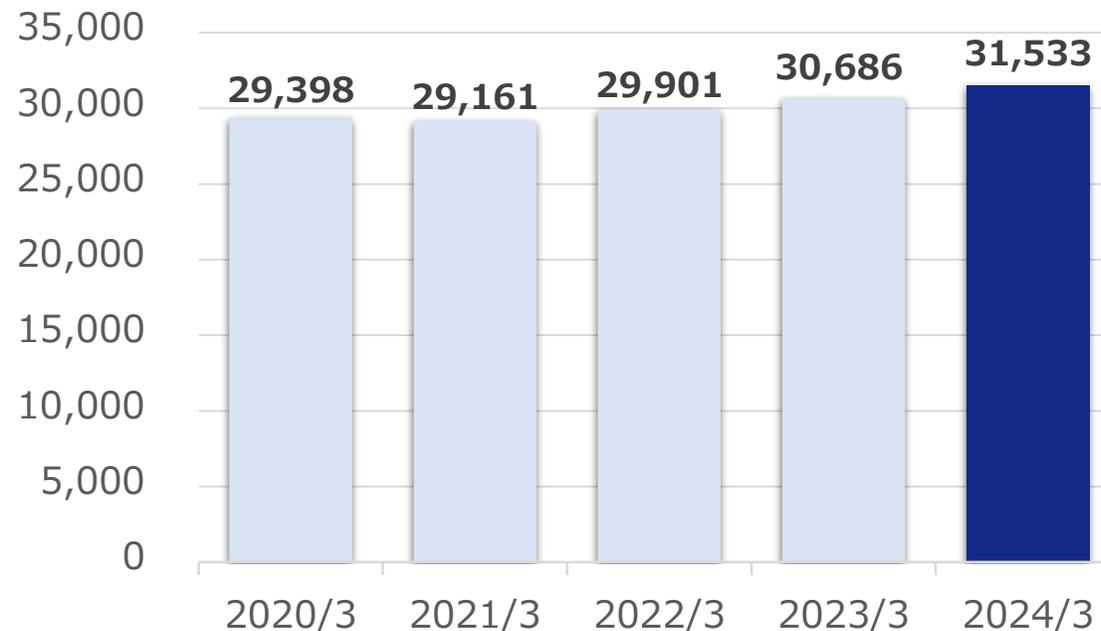
総資産

単位：百万円



純資産

単位：百万円



● 2024年3月期の自己資本比率 79.5%

● 1株当たり純資産 2,071円60銭

※ 当期において、企業結合に係る暫定的な会計処理を確定しており、前期（2023年3月期）の総資産の金額については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映された後の金額を記載しております。

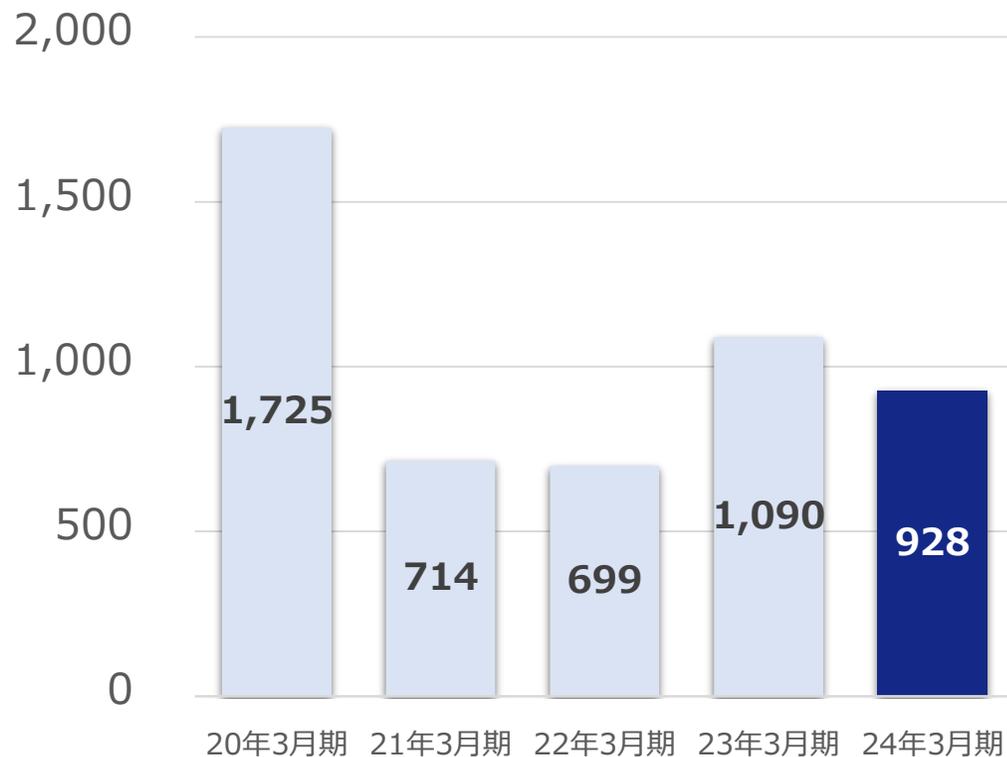
2024年3月期キャッシュ・フロー計算書

	2023年3月期実績 (百万円)	2024年3月期実績 (百万円)	前期比増減額 (百万円)
営業活動によるCF	733	1,678	945
投資活動によるCF	△400	△507	△107
財務活動によるCF	△223	△405	△181
現金等換算差額	58	61	3
現金等の増減額	167	827	659
現金等期首残高	7,474	7,641	167
現金等期末残高	7,641	8,469	827

主な設備投資内容・設備投資額推移

設備投資額推移

単位：百万円



※ 設備投資額は有形+無形固定資産の設備投資に係るものです。

※ 当期（2024年3月期）より報告セグメントの区分を変更しており、前期の数値については、当該変更を反映したものに組替えております。

	23年3月期実績 (百万円)	24年3月期実績 (百万円)	前期比 (%)
住生活関連機器	579	221	38.3
検査計測機器	294	204	69.4
産業機器	209	497	237.1
エクステリア	3	13	371.0
機械・工具	6	16	246.9
調整額	△4	△25	-
合計	1,090	928	85.1

● 当期の主な設備投資の内容

■ 産業機器

- ・ 複合加工機および旋盤等の機械装置
- ・ 渦巻ばね製造設備

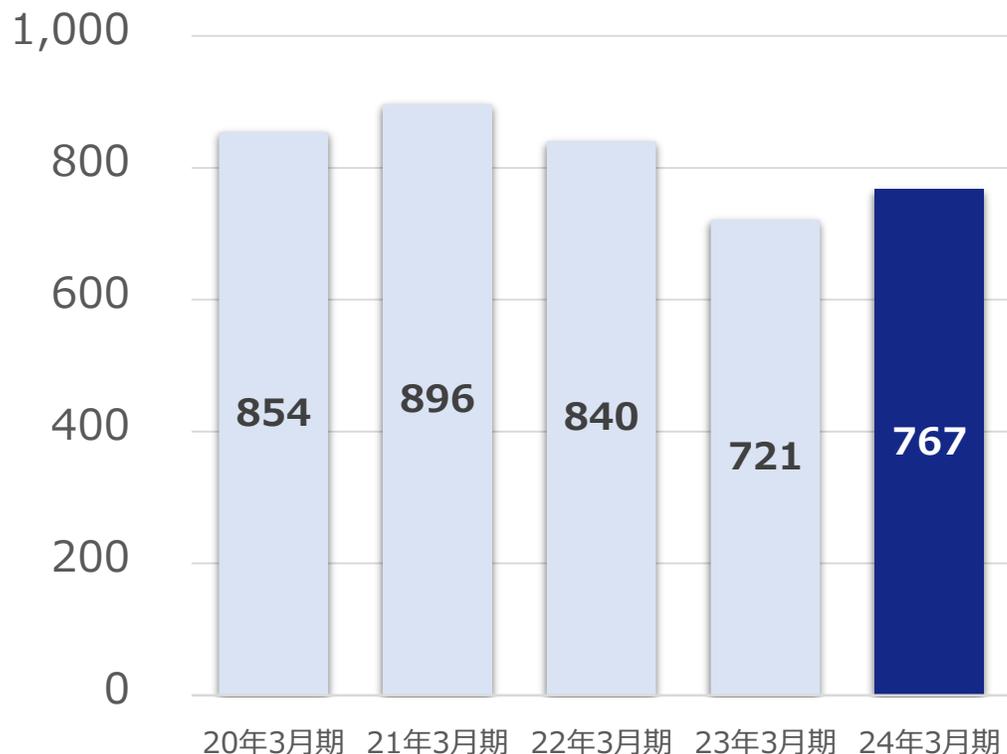
■ 検査計測機器

- ・ 評価用検査計測装置

研究開発の状況

研究開発費推移

単位：百万円



● 当期のセグメント別研究開発費の内訳

住生活関連機器	355百万円
検査計測機器	412
産業機器	0
エクステリア	0
機械・工具	0
合計	767

● 当期の主な研究開発の内容

■ 住生活関連機器

- ・ 環境対応 新素材研究等
- ・ 金属3Dプリンターを活用した開発試作
- ・ 体外診断用医薬品および診断装置開発（2023年11月上市）

■ 検査計測機器

- ・ 高速・高分解能新型カメラおよび画像処理装置開発
- ・ AIによる欠陥分類研究

■ 新事業開発関係（基礎研究）

- ・ 医療関連機器開発
- ・ MEMS（微小電気機械システム）デバイス開発

受注高・受注残高の状況

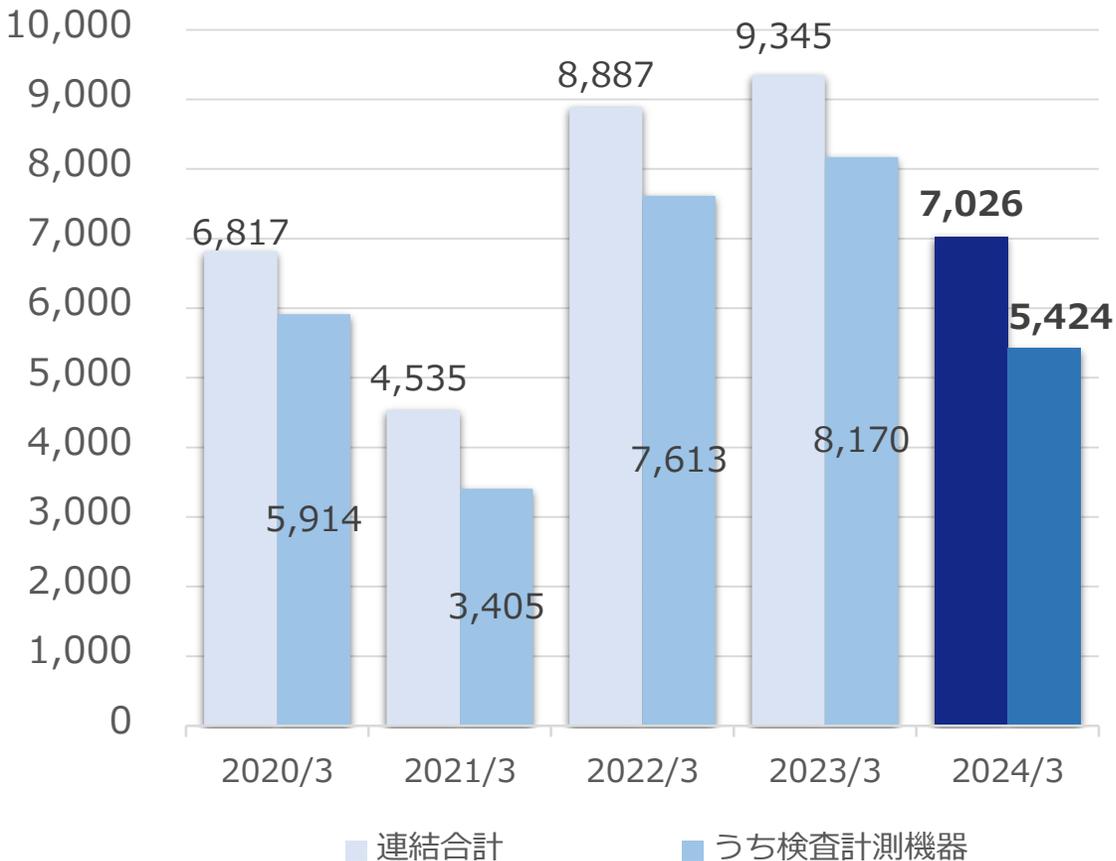
受注高推移

単位：百万円



受注残高推移

単位：百万円

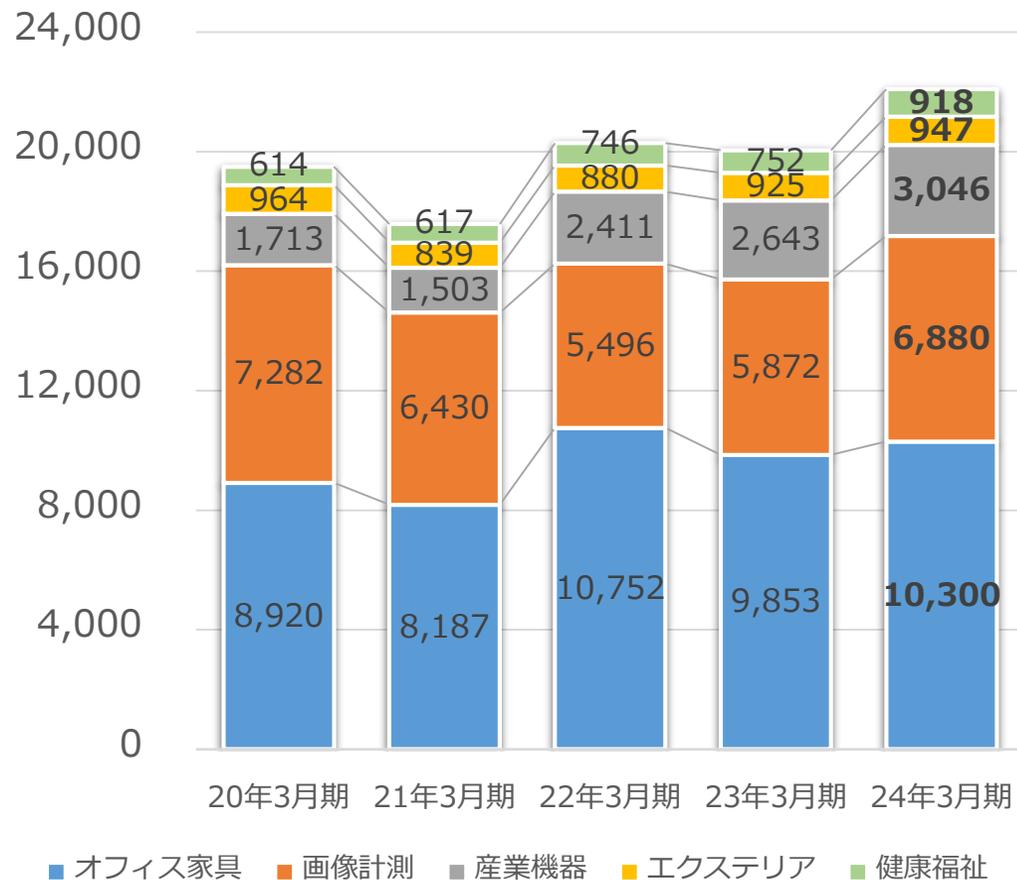


2024年3月期（単独） 部門別売上高実績の内容について

2024年3月期 事業別売上高(単独)の推移

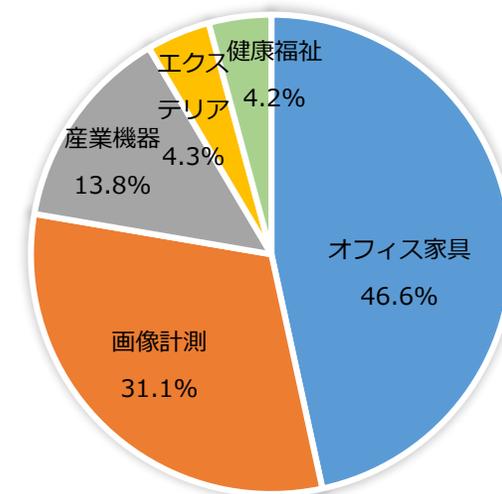
事業別売上高推移

単位：百万円



	23年3月期実績 (百万円)	24年3月期実績 (百万円)	前期比 (%)
オフィス家具	9,853	10,300	104.5
画像計測	5,872	6,880	117.2
産業機器	2,643	3,046	115.2
エクステリア	925	947	102.4
健康福祉	752	918	122.0
合計	20,047	22,092	110.2

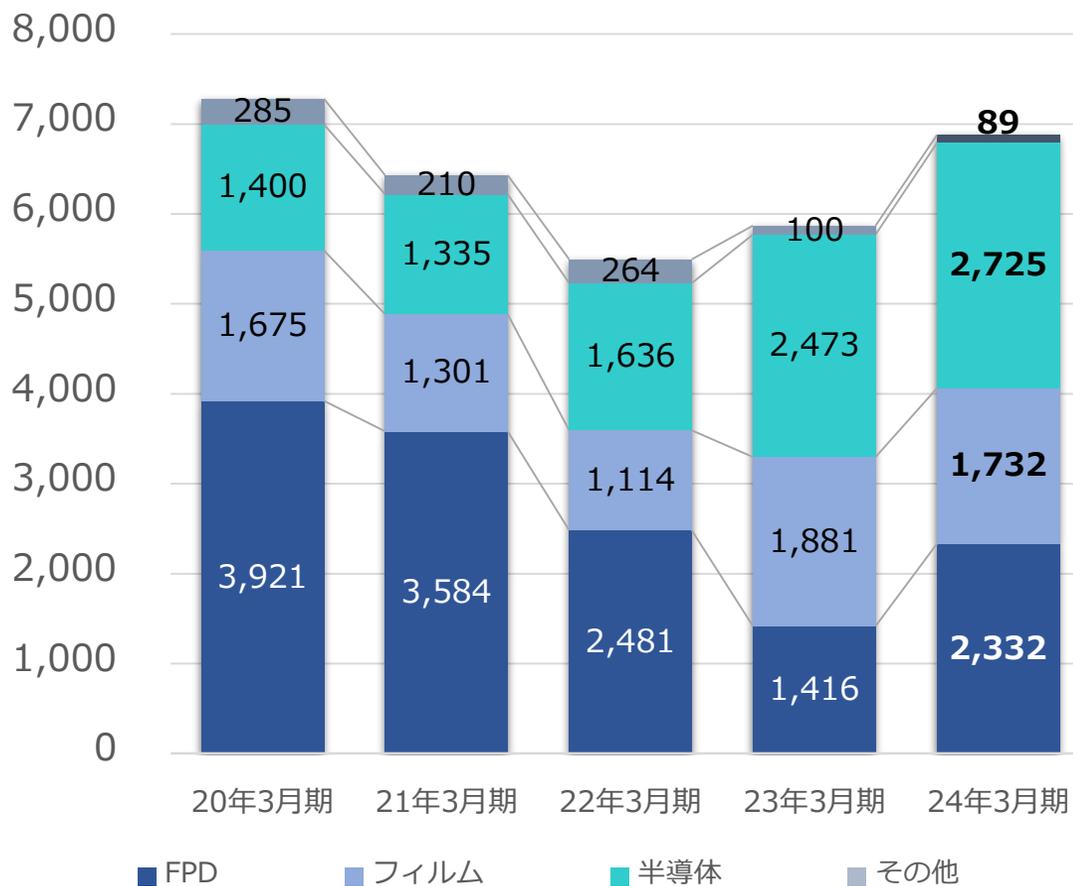
2024年3月期 売上高構成比(単独)



2024年3月期 検査計測装置(単独) 売上高の推移

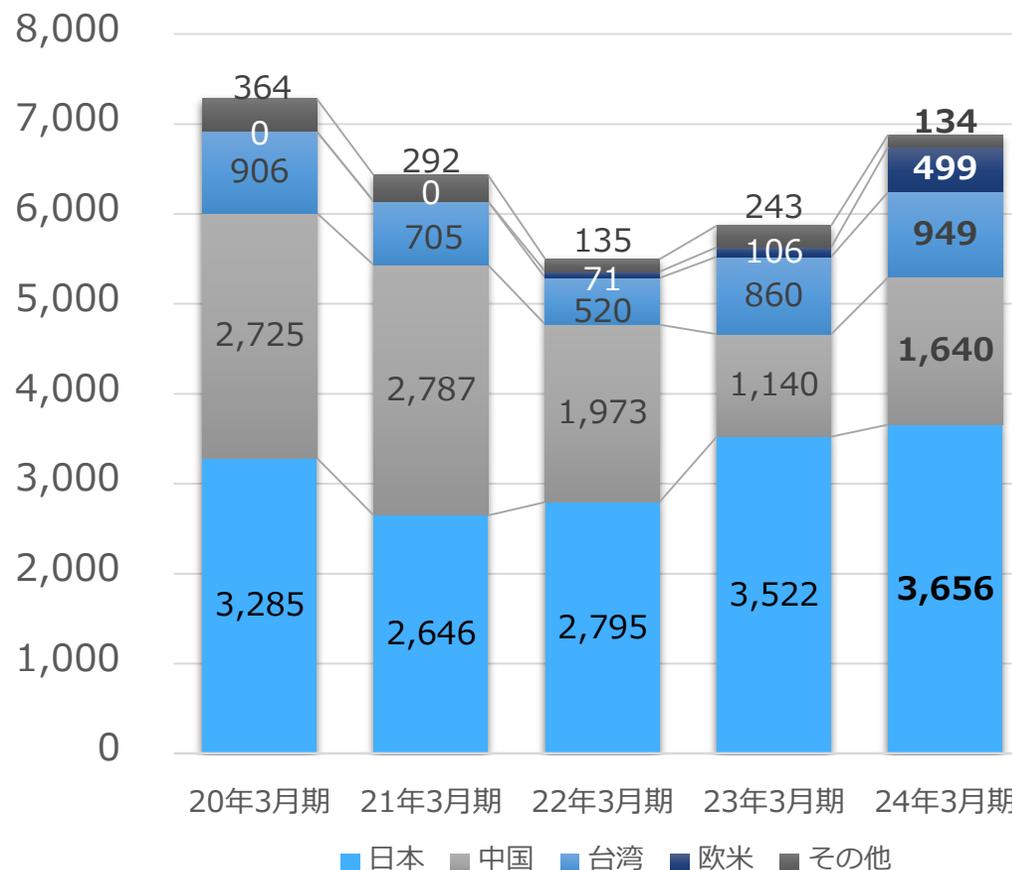
検査計測装置品目別売上高推移

単位：百万円



検査計測装置地域別売上高推移(単独)

単位：百万円



2025年3月期の通期予想（連結）について

2025年3月期通期予想（連結）

	2024年3月期実績 (百万円)	2025年3月期予想 (百万円)	前期比 (%)
売上高	25,173	24,000	95.3
営業利益	880	420	47.7
経常利益	1,023	550	53.7
親会社株主に帰属 する当期純利益	601	550	91.5
1株当たり配当金 (連結配当性向)	20円00銭 (50.6%)	20円00銭 (55.4%)	—

新中期経営計画

「ONE TAKANO & Growth」について

代表取締役社長 鷹野 準

1. タカノの経営理念・ミッションと中期経営計画基本方針

長期経営方針	「百年企業となる」
--------	-----------

経営基本理念	常に高い志を持ち、社会のルールを守り、世の中の変化を見すえ、持続的成長・発展を通じ、豊かな社会の実現に貢献する
--------	---

中期経営計画スローガン	ONE TAKANO & Growth
中期経営計画基本方針	研究開発型企業を目指し、他に勝る技術開発・商品開発・事業開発を確実に進め、世の中に新しい価値を提供すると共にグローバル化を進め、事業の発展を図る ～社会が、そしてタカノがサステナブルであるために、構造改革とプロセス改革を進め、高付加価値事業へのシフトとSDG s に向けた動きを加速させ、成長を確実なものにする～
キーワード	『 創意工夫 』・『 挑戦 』・『 覚悟 』+ Speed

●今期中計の期間は、2024年度～2028年度の5年間とします

・2024年度～2026年度の3年間の積極的な投資により、成長の基盤固めを行い、2027～2028年度の2年間でその成果を実現します

2. 事業環境

医療機器・医薬品

- ・医療機器の世界市場は、高齢化の進行と医療の高度化により、年率5～6%程度の伸長を予想
- ・国内でのアレルギー検査では、院内検査市場が急成長している
- ・また内視鏡検査クリニックの増加にも注目

福祉

- ・高齢者人口は引続き増加し、介護費用負担も増大。介護保険ビジネスは、厳しさを増し、介護保険外ビジネスも競争激化する

オフィス家具

- ・今後5年間のオフィス供給は、過去5年間平均を下回る予想。また大規模オフィスビルの空室率も今後高止まりを見込む
- ・一方で、新しい働き方、多様な働き方により、“新しいオフィス”へのニーズが生まれている

半導体・電子部品

- ・いわゆるシリコンサイクルを繰り返しながらも長期的には右肩上がり市場拡大。各国政府の資金援助を受けた新工場が、24～27年度にかけて相次いで稼働開始
- ・今後5年間では生成AI普及によるデータセンター拡大やEV/自動運転により、ロジック、メモリ、パワー半導体とも大幅な市場拡大を想定
- ・一方FPD検査装置に関しては、今後、市場拡大する可能性は少ない

電池・エネルギー関連

- ・フィルム検査の分野において、EV普及を要因にLiBなどのセパレータ向けなど電池関連の異物検査装置市場拡大を見込む
- ・また電磁弁の分野でも、カーボンニュートラルに向けた燃料改質など新規需要発生を見込む

エクステリア

- ・住宅着工件数減少により、市場は縮小傾向
- ・一方で、インバウンド需要により、ホテルや大型複合施設、大型イベント向けの需要の伸び

工作機械等（卸売/代理店）

- ・地元製造業に投資意欲が復活、国内帰りの工場新設も
- ・人手不足により、FA・省人化投資も増加



3. 重点投資分野

事業構造改革

- ✓ 成長市場への集中投資
- ✓ 高付加価値事業へのシフト

半導体関連事業
(画像検査・電磁弁)

医療/福祉分野

“新しいオフィス”への対応
(多品種少量/変種変量 生産体制)

グローバル体制強化

- ・海外拠点強化/人材育成
- ・海外取引拡大

- ・研究開発部門の長期研究成果の市場投入
- ・研究開発費：5か年累計で約50億円を投下

BCP強化（設備更新）

- ✓ 老朽化設備の更新（災害に強い生産体制）
- ✓ 生産性向上

環境関連投資

- ✓ 自家消費型太陽光発電増設 等

5年間の累計投資額
90億円（※）

DX化推進

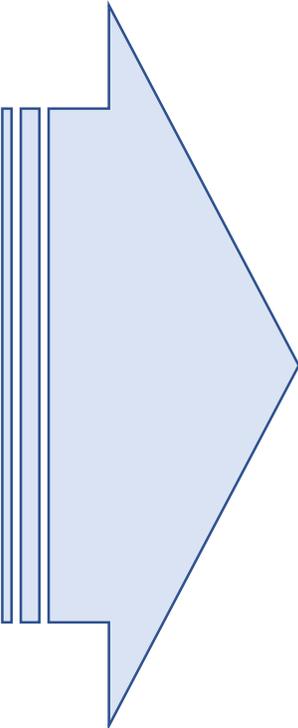
- ✓ 工場DX化の基盤となる次期基幹システムの構築（更新）

人的資本経営/人事制度改革を支える新人事システム運用開始

（※）基本的には手元資金にて賄うことが可能と考えておりますが、必要に応じて外部資金を調達する可能性があります。

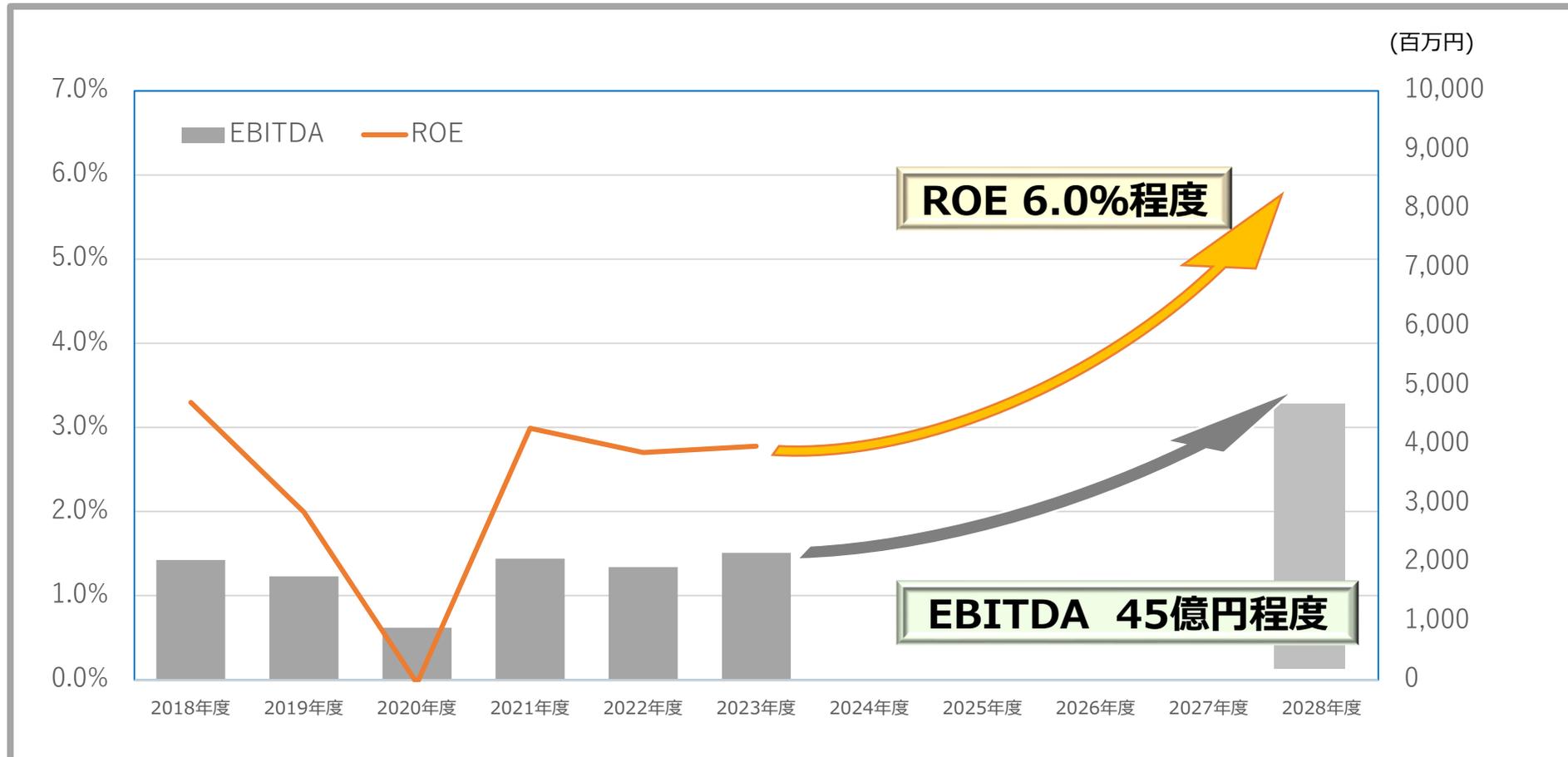
4. 業績目標

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	2029年3月期 目標
連結売上高	230億円	251億円	300億円以上
連結営業利益	9億円	8億円	30億円以上
連結営業利益率	4.3%	3.5%	10%以上



5. 経営指標

- 成長分野に集中投資することで資産効率を上げ、ROA・ROEの向上を図ります。
- また利益水準の向上により、キャッシュフローの向上を見込んでおります。



6. 配当目標

○今次中期経営計画期間中、配当性向40%を目安に、安定的かつ継続的に実施してまいります。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	今次中計期間中
一株当たり配当金	16円	16円	8円	16円(※)	18円	20円	目安：配当性向40%
配当性向	25.4%	41.5%	-	27.2%	33.1%	50.6%	

(※)記念配当2円を含む

トピックス

1. 南平工場で 太陽光発電の電気利用開始

画像検査装置の生産拠点である南平工場にて太陽光パネル324枚を自己所有型で設置し、2023年11月18日より工場内での自家消費を開始しました。年間発電量143,600kwhを見込んでおり、概ね年間電気使用量の20%をまかなう予定で、電気料金概算で4百万円の削減に繋がります。

同工場ではすでに100%CO2フリー電力を導入しておりますが、本件によりカーボンニュートラルを推進し環境負荷低減を図ります。

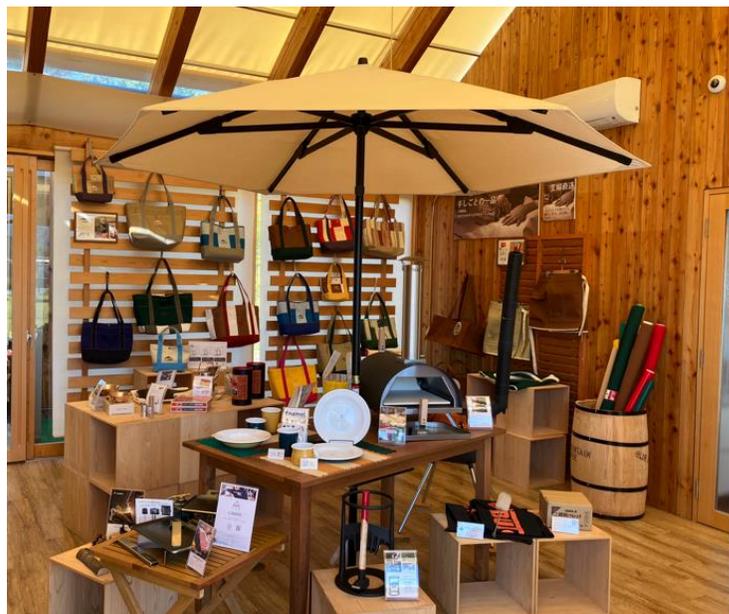




2. ルビーショップ リニューアルオープン

当社エクステリア工場（長野県駒ヶ根市）に隣接する、“ルビーの里 エクステリアガーデン”の『ルビーショップ』が2023年10月にリニューアルオープンしました。

当社製オーニングの生地を使ったバッグなどを取り扱っており、また同ガーデンでは年2回、5月と10月に、赤い花のソバ「高嶺ルビー」が見頃を迎えます。



3. 地元の小学校で、モノづくり授業実施

端材を活用したクッション作りを、今年も実施致しました。授業を担当するファニチャー部門の椅子作りの様子をご紹介、同校卒業の当社社員が参加することで生徒との距離感も近くなり、タカノに興味を持って取り組んでいただきました。クッションが完成すると、皆さんとても喜んでくれました。自分自身で作ることで、改めて『モノをつくる楽しさ』を感じていただけたのではないのでしょうか。



2024年3月期 (单独) 検査計測機器 決算説明資料

取締役部門長 鷹野 雅央

2024年06月18日(火)

2024年3月期 検査計測機器 業績の内容等について

(ご注意)

本資料は、検査計測機器の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものです。

本資料で開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。本資料で述べられている予測や見通しには、不確実な情報が含まれていることをご承知おきください。

1. セグメント報告
2. タカノ検査計測部門報告
 1. 事業概況
 2. 売上計画
 3. 中期事業展開方針
 4. 非財務投資の紹介

1. セグメント報告

2. タカノ検査計測部門報告

1. 事業概況

2. 売上計画

3. 中期事業展開方針

4. 非財務投資の紹介

セグメント情報

	会社名	沿革	基本情報	事業の内容
加工・組立	タカノ機械株式会社 ※連結子会社 	1979年当社治工具・専用機の設計製造部門を分離独立させ設立	事業人員：約50名 拠点：宮田村	<ul style="list-style-type: none"> 省力化機械の製造販売 検査計測装置のメカ機械等の製作
調整・出荷	タカノ株式会社 検査計測部門 	1987年画像処理装置第1号機を完成	事業人員：約250名 国内拠点：全6拠点 <ul style="list-style-type: none"> 信州南平工場 函館事業所 埼玉事業所 東京営業所 静岡CSセンタ 大分CSセンタ 	半導体や液晶・高機能フィルム用の検査計測装置等の製造販売
保守・改造	台湾鷹野股份有限公司 ※連結子会社 	2005年当社100%子会社として設立	事業人員：約15名 拠点：全2拠点 <ul style="list-style-type: none"> 台中本社 桃園事務所 	台湾におけるFPD向け画像処理検査装置のメンテナンス、アフターサービス、販売活動

セグメント売上高（実績：2024年3月期）

セグメント売上高は増収

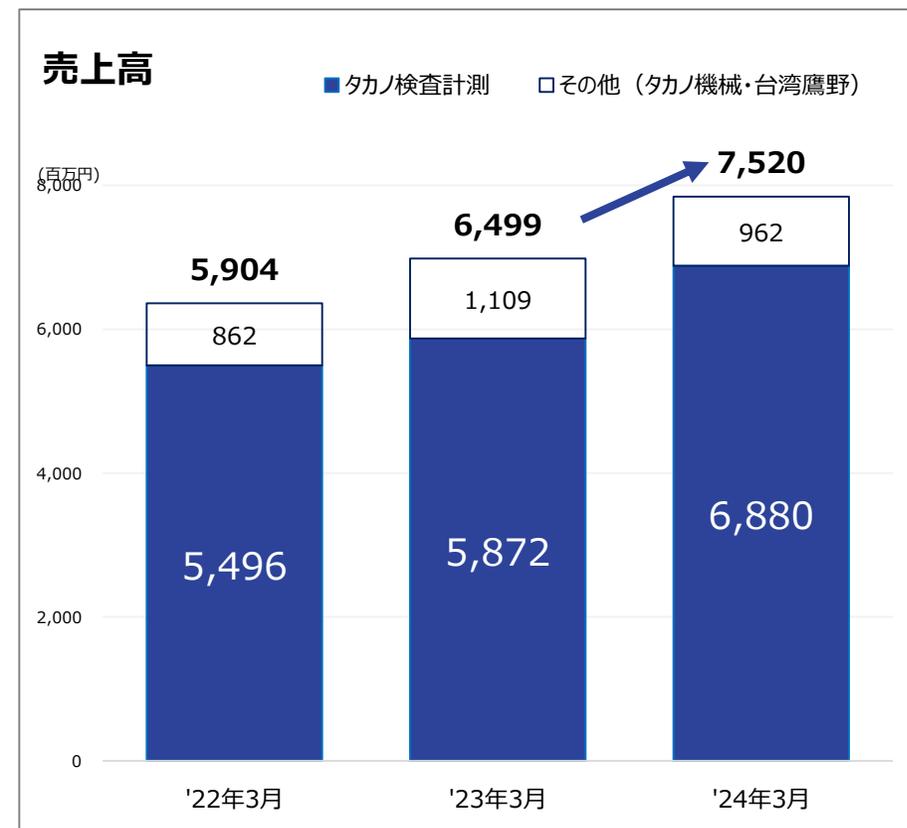
タカノ検査計測部門の過年度受注分中国大口物件(FPD:液晶)の売上計上の影響大

検査計測機器 売上高（百万円）

	2023年3月期	2024年3月期	増減額	増減率 (%)
タカノ検査計測 ※1	5,872	6,880	1,008	17.2%
その他 ※1 (タカノ機械・台湾鷹野)	1,109	962	△147	△13.3%
調整額	△482	△321	—	—
連結セグメント 売上高 ※2	6,499	7,520	1,021	15.7%

※1：タカノ検査計測及びその他の売上高は、セグメント間取引消去前の数値。

※2：連結売上高は、セグメント間取引消去後の数値。



セグメント営業利益（実績：2024年3月期）

セグメント利益は減収

中国大口物件(FPD:液晶)影響、コロナ禍先行手配後の在庫調整・評価切下げなど

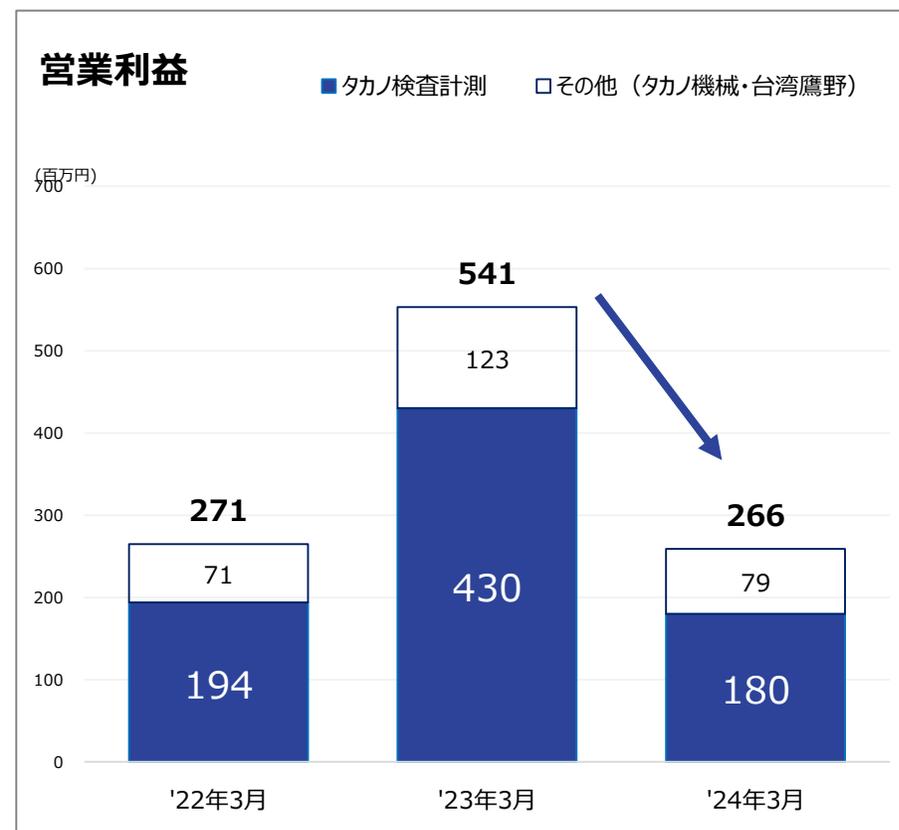
検査計測機器 営業利益（百万円）

	2023年3月期	2024年3月期	増減額	増減率 (%)
タカノ検査計測 ※1・3	430	180	△250	△58.2%
その他 ※1・3 (タカノ機械・台湾鷹野)	123	79	△44	△36.0%
調整額	△12	7	—	—
連結営業利益 ※2・3	541	266	△275	△50.8%

※1：タカノ検査計測及びその他の営業利益は、セグメント間取引消去前の数値。

※2：セグメント利益は、セグメント間取引消去後の数値。

※3：当期より報告セグメントの区分を変更しており、過年度も当該変更を反映した数値に組替え。



1. セグメント報告

2. タカノ検査計測部門報告

1. 事業概況

2. 売上計画

3. 中期事業展開方針

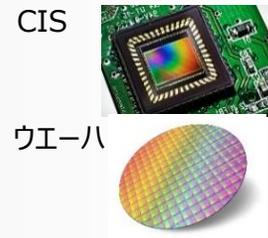
4. 非財務投資の紹介

事業紹介

半導体・電子デバイス事業 (以下「半導体事業」という)

ウエーハの異物や欠陥を高速、高精度に検出できる半導体検査装置

- Vi** — ウエーハの配線パターンやクラック、異物混入などの製品外観を高速、高精度に検査
- WM** — ベアウエーハ表面のパーティクルを高感度に検出
- ALTAX** — ウエーハやBGAなどのパッケージ基板上に形成された bumps の高さ、径、コプラナティを高速かつ高精度に測定



WMシリーズ Viシリーズ ALTAX



※本資料における「半導体事業」は半導体と電子デバイスの合計を意味する。

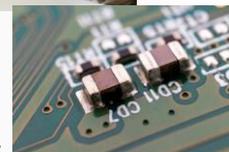
フィルム事業

ラインセンサーを用いた光学式のフィルム検査装置

高性能カメラによる高速検査が可能 新規画像処理ユニットを搭載し、高速画像転送とAI欠陥分類により、生産ラインの品質向上を実現する

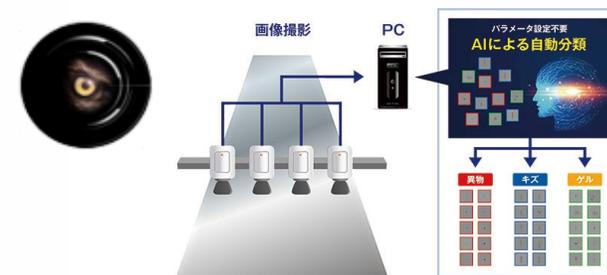
参入市場：光学フィルム・電子部材・Energy・医療用フィルム

機能性フィルム



電子部材

Hawk eyes (+ TAKANO AI)



FPD事業 (液晶/フラットパネルディスプレイ事業、以下「FPD事業」という)

色ムラ、欠陥等を高精細に検出できる液晶検査装置

テレビやスマートフォン用の液晶パネル製造工程でパターン付き基板の自動検査・欠陥判定をし、量産の品質工程管理を行う装置

参入市場：LCD(液晶ディスプレイ),PDP(プラズマディスプレイ),OLED(有機ELディスプレイ)

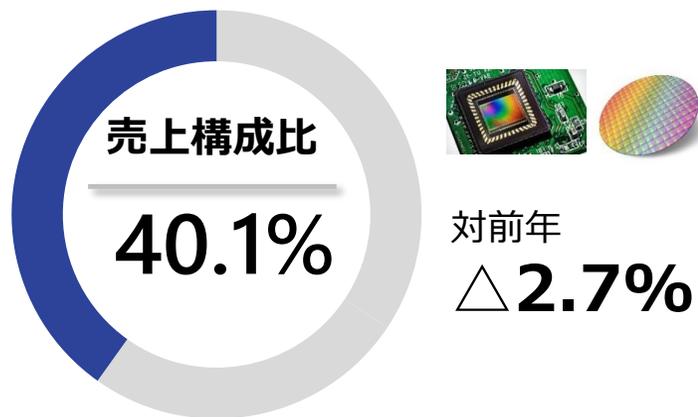


高精細外観検査装置 (カラーフィルター等) ムラ検査装置



部門売上構成（実績：2024年3月期）

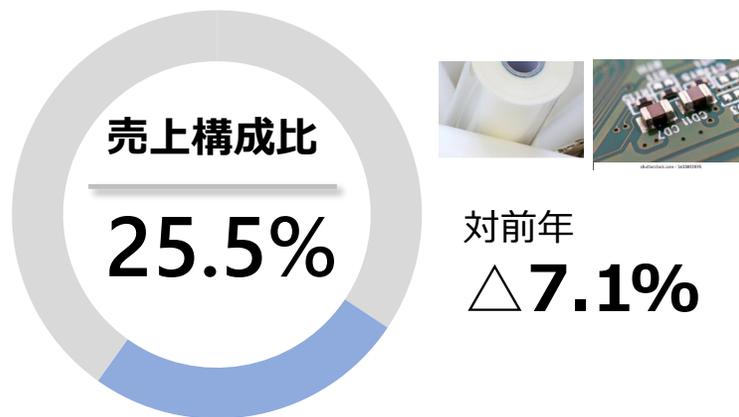
半導体事業



ウェーハの異物や欠陥を高速・高精度に検出できる半導体検査装置を提供



フィルム事業



ラインセンサーを用いた光学式のフィルム検査装置を提供



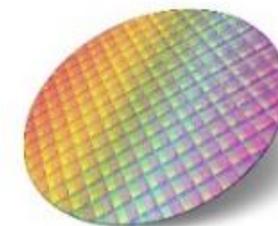
FPD事業



色ムラ、欠陥等を高精細に検出できる液晶検査装置を提供



半導体シフト(構造改革)を継続実行中



- ①会計面 : 南平工場の**固定資産（土地・建物を除く動産）**の減損
→ **影響額232百万円**
- ②組織面 : 2023年12月に**組織変更**を実施、**人事異動も活発化**
- ③人財面 : **中途人財**の採用、**OJTによる人財育成**(人材配置の見直しを含む)
- ④設備面 : **顧客向けデモ機**の設置(海外含む)、**社内開発用機器**の設置

1. セグメント報告

2. タカノ検査計測部門報告

1. 事業概況

2. 売上計画

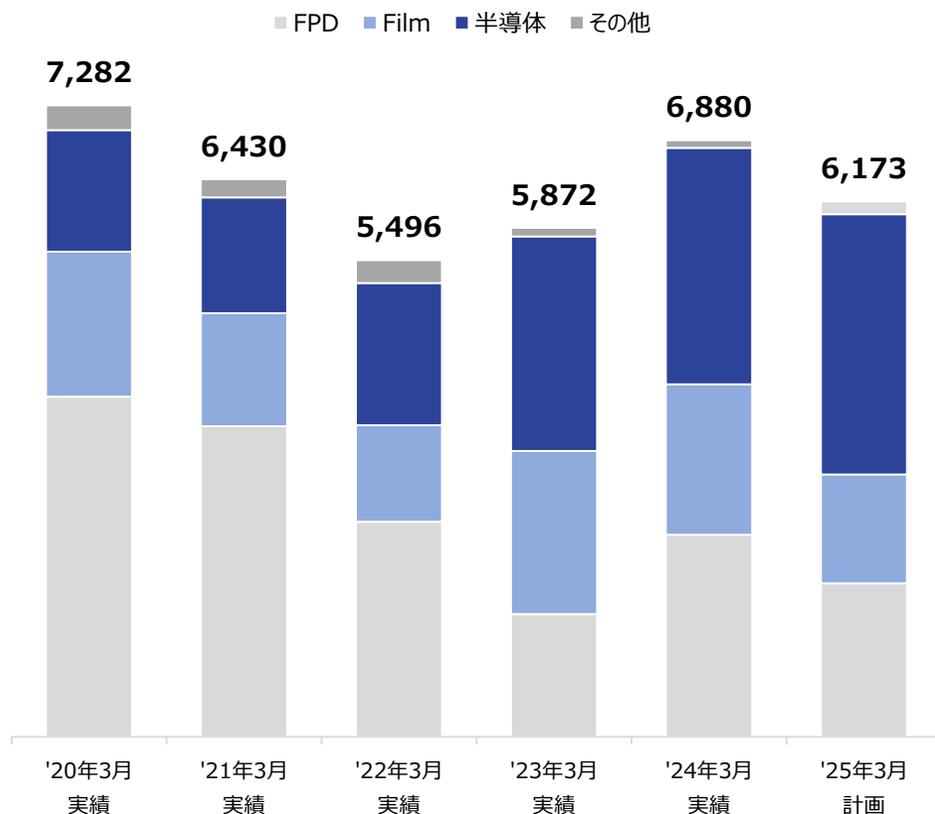
3. 中期事業展開方針

4. 非財務投資の紹介

部門売上計画（計画：2025年3月期）

半導体事業拡大を進める（足元の市況は停滞感あるが、中長期を見据えて推進）

2025年3月期 売上高 推移・計画（百万円）



半導体

- WMシリーズ次世代製品開発に注力
- 中間工程・後工程実装高度化（先端パッケージ含む）をターゲットに新製品開発
- グローバル営業体制強化（欧米・アジア同時展開）
- 半導体事業へ資源集中振向け（人員・拠点資産）

フィルム

- 電池部材・電子材料分野をターゲットに
- グローバル営業展開
- ターゲット市場向け標準モデルの開発と拡販

FPD

- 今後の需要見込みに合わせた効率的事業体制へ
- 半導体事業への人的資源・資産のシフト
- アフター・メンテ・改造需要の掘り起こし

1. セグメント報告

2. タカノ検査計測部門報告

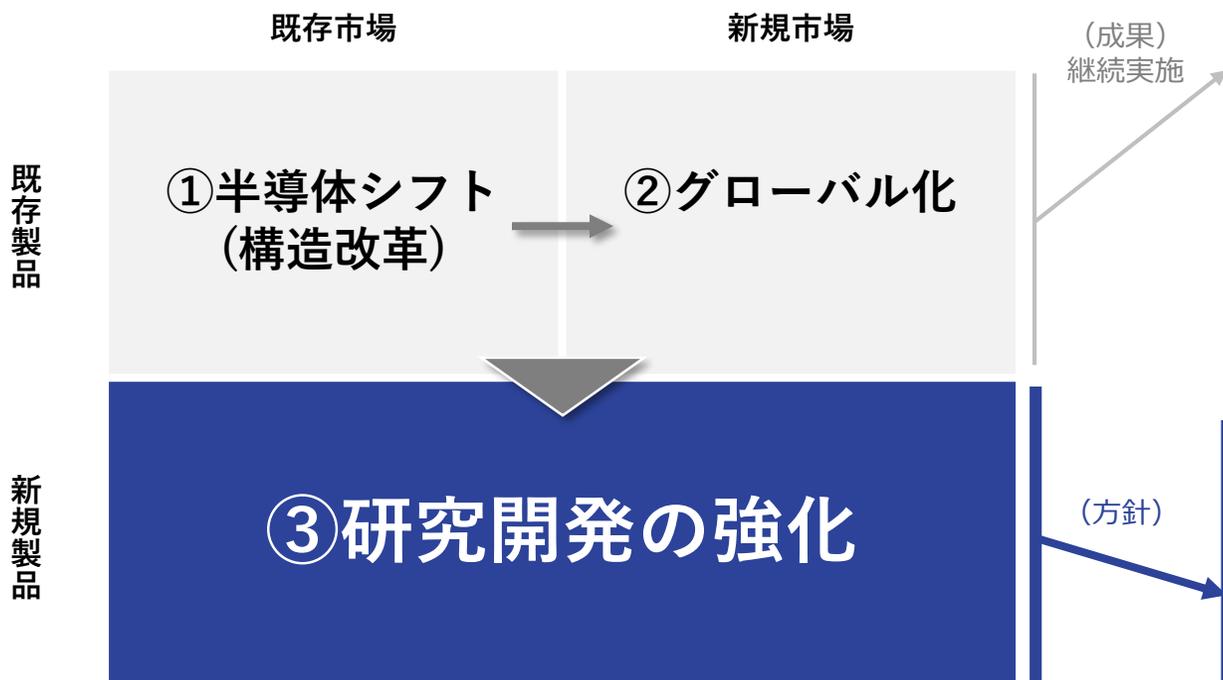
1. 事業概況

2. 売上計画

3. 中期事業展開方針

4. 非財務投資の紹介

今回中計において研究開発を強化し、
半導体市場における競争/成長力を高める。



前回中計：①半導体シフト(構造改革)

- FPD市場の成熟化(及び市場縮小)
- 高収益事業である半導体関連事業へのシフト
- 成果：半導体関連売上高構成比(FY2024)：**40%**

前回中計：②海外市場売上の拡大

- 米国代理店との新規契約(半導体事業)
- 海外展示会への新規出展(米国, 欧州, 東南アジア等)
- 海外評価デモ環境の整備(台湾など)
- 成果：海外売上高構成比(WM/FY2023)：**54%**

今回中計：③研究開発の強化

- 研究開発関連投資を拡大(半導体関連が中心)

研究開発関連費用：**1.5倍**

足元は市況停滞気味であるが、半導体市場に対してはポジティブな認識 (変動はあるが市場拡大を見込む、技術革新も進み当社事業拡大の余地あり)

事業	マーケット状況	補足説明
半導体	 曇 → 晴時々雲	<ul style="list-style-type: none"> ● 車載（EV/自動運転）・パワー半導体は引き続き底堅い需要。 ● 半導体市況全体はデータセンター投資等により継続拡大。 ● パワー半導体を中心に、引合いが増加傾向。 ● 後工程・先端パッケージ向けに投資拡大期待 ● 技術革新が進む → 新しいプロセス、新しい検査ニーズの発生 積極的な研究開発投資の検討及び実施を行う(グローバルな競争に備える)
フィルム	 晴時々雲 → 晴時々雲	<ul style="list-style-type: none"> ● 半導体実装関係部材の投資は底堅い。 ● バッテリー関連は、車載向けに継続的な成長が期待される。 ● 半導体、電子デバイス向け基材メーカーからの検査ニーズが増加
FPD	 雨 → 雨	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要顧客の新規大型投資については継続して慎重な状態が続く。 ● 主要顧客の生産性改善投資（装置改造・メンテナンス）意欲はある ● 当社納入の既設検査装置の改造需要に機会

1. セグメント報告

2. タカノ検査計測部門報告

1. 事業概況

2. 売上計画

3. 中期事業展開方針

4. 非財務投資の紹介

戦略実行の中心となる「人財」に関して、
多様化の推進や、教育機会の提供を実施。
全員が活躍できるチームづくりを目指す。



留学生採用の開始

- 東京国際大学のインターンプログラムへの協力を開始
- 初めてとなる留学生採用を実施(2名採用, 女性営業職)



東京国際大学インターンシップ(2024)
: 写真と参加学生の国籍

部門内大学の試験実施

- 全社人財教育制度に加えて、部門独自の教育活動実施
- 「パーパス経営」等をテーマに、異業種トップ講演を実施
- 講師①：大学客員教授(パーパス経営)
- 講師②：大手精密機器企業・会長
- 講師③：大手アパレル企業・執行役員
- 講師④：大手総合商社・執行役員
- 講師⑤：大学教授(画像処理分野)
- TOEICやG検定(AI関連)等の資格受験の奨励と表彰



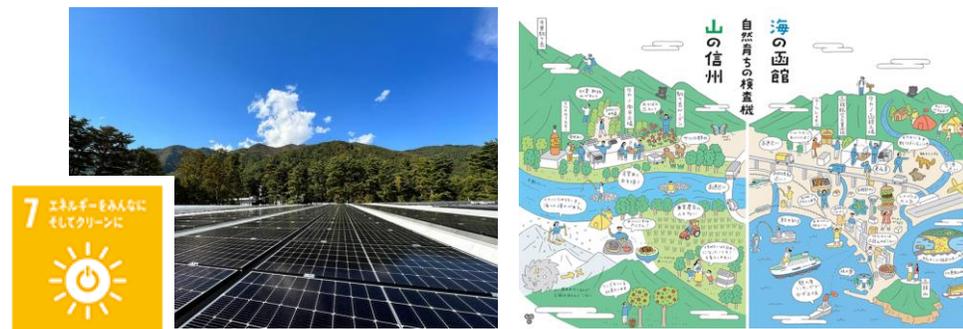
サステナビリティ・SDGs・ESG

部門運営の前提となる「環境・地域」について
継続的な支援を実施、成長と貢献の両立。



太陽光パネル(自家消費)の増設投資

- メイン工場である信州南平工場に太陽光パネルを増設
- 導入済みの自然エネルギープランも継続(信州南平, 函館)



地域活性化・スポーツ大会への支援

- 元気な地域づくりに向けてスポーツ大会への協賛を継続



END
(検査計測機器)

※この資料に記載されている業績予想等の将来に関する予測は、当社経営陣が現時点で入手可能な情報に基づき、判断したものです。

将来に関する予想には様々な潜在的リスクや不確定要素が内在されており、実際の業績は種々の要素によりこれらの将来予想とは異なる場合があります。

従いまして、この資料にある将来に関する予想に全面的に依存して投資等の判断を行うことはお差し控えください。